

第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	鶴見ポケット保育園
経営主体(法人等)	有限会社KBC
対象サービス	認可保育所
事業所住所等	〒230-0051 横浜市鶴見区鶴見中央1-7-5
設立年月日	昭和25年4月1日
評価実施期間	平成26年9月 ～ 28年2月
公表年月	平成28年4月
評価機関名	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま
評価項目	横浜市板

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）

【施設の概要】

鶴見ポケット保育園は、JR「鶴見」駅から徒歩約1分、または京浜急行線「京急鶴見」駅から徒歩約2分の商店街の中にあります。平成25年（2013年）4月、有限会社KBCにより開設されました。

園の施設は、鉄骨造り4階建てで、1階が保育室（0・1歳児）、事務室、給食室、2階が保育室（2歳児）、多目的ホール、医務室兼職員控室、3階が保育室（3歳児、4・5歳児）、4階が屋上園庭や倉庫などとなっています。定員は62名（生後57日～満6歳の3月末まで）で、開園時間は、平日7:00～19:00、土曜日7:00～15:30です。

保育理念は“保護者、園職員、地域の方々ほか、皆で見守る優しい環境作りを大切に、まるでポケットの中のようなぬくもり溢れる温かさと安心感を提供出来るよう心掛け、地域に根付いた子育て支援を目指していく”としています。保育目標を“①ひとりひとりの個性を尊重し、その個別の状況に応じた子ども支援と家庭支援②心と体の健康を大切にし、情緒豊かな人間関係の構築③「良く食べ、良く遊び、良く眠る」基本的な生活習慣の確立”と定め、保育方針を“子どもたちひとりひとりの個性に寄り添いながら、認め、褒めて、考えて、共に成長を喜ぶ”としています。

◆高く評価できる点

1、子どもたちは、元気に遊びながら、さまざまなことを学んでいます

天気の良い日には、散歩や公園に出かけます。乳児でもかなり遠い公園まで歩いて行き、思いっきり身体を動かしています。ボールを蹴って自分で追いかけたり、保育士に遠くの方に投げてもらったりしています。手の力をつけるため、保育士に見守られながら、鉄棒を掴んだり、よじ登ったりすることもあります。幼児は、縄跳び、ボール遊びなどのほか、ドッジボールやリレーなどルールのある遊びもしています。また、毎朝、0歳児から5歳児クラスの全員がホールに集まり、朝の会を行い、歌を歌った後、音楽に合わせて体操をします。さらに、4・5歳児は、月1回、外部講師が来園してのダンス教室があります。

室内では、自分が好きなことをして遊ぶ時間が十分にあります。さまざまなブロックや積み木、電車、車、人形、ぬいぐるみ、トランプ、カルタ、折り紙などで、友だち同士で遊んだり、ひとりで絵を描いたり、絵本読みに熱中していたりします。遊びの終わりの合図で、子どもたちは片付け

始めます。箱や棚に、おもちゃの写真やマークを付け、乳児でもきちんと片付けることができるよう配慮されています。また、散歩から帰ったときの着替えや、午睡時のパジャマへの着替えなどの後、脱いだ衣類をきちんと仕舞うことや、食後に歯磨きをするなど、基本的な生活習慣が身についています。

2、職員は、子どもの気持ちを尊重した保育を心がけています

全職員が、保育方針である“子どもたちひとりひとりの個性に寄り添いながら、認め、褒めて考えて、共に成長を喜ぶ”を、日々の活動の中で活かすようにしています。例えば、自由遊びのとき、一人一人が興味・関心を持って遊べるように見守ったり、子どもの声に応じて別のおもちゃを出したりしています。乳児クラスの子どもが散歩に出かけるときなどは、出来るだけ子ども自身で用意するの見守り、できたときは“上手になったね”などと褒めています。また、“だめ”とか“いけない”などの言葉を使わないようにしています。「何をしたかったのかな？」とか「こうしたらどう？」といった声をかけています。

3、子育て支援や地域との交流に力を入れています

子育て支援として、一時保育、育児支援、育児講座、育児相談を行っています。育児支援は、1回3組限定で、1～3歳の子どもが、同年齢のクラスの子どもたちと一緒に遊びや給食を経験しています。また、「親子で遊ぼう」として、ホールや屋上の庭園などで親子が遊べる機会を提供しています。育児講座は、「食中毒と離乳食」「寒さに負けない強いからだを作ろう」などをテーマとしています。

また、子どもたちが地域のことを知ったり人々と触れ合うことを大事にしています。例えば、4・5歳児クラスは、月1回程度、近隣の図書館を訪れたり、地域ケアプラザに行き、高齢者の前で歌を披露したり、プレゼントを渡したりしています。さらに、系列園や近隣の保育園の子どもたちとの交流の機会も作っています。3～5歳児の遠足では、電車に乗って羽田空港まで行く経験もしています。

◆改善や工夫が望まれる点

1、マニュアルの整備と管理

健康管理・感染症への対応・衛生管理・安全管理などのマニュアルは作成されていますが、個人情報保護やボランティア受け入れなど、作成されていないものがあります。また、既存のマニュアルも内容をさらに充実することが望まれるものもあります。さらに、定期的に見直すまでには至っていません。マニュアルがなぜ必要なのか、どのようなことを盛り込むのか、見直しの頻度をどのようにするかなどを、職員間で検討し、マニュアルを整備することが望まれます。

2、人材育成の工夫

外部研修・園内研修、職場訓練（OJT）、自己啓発などを、どのように組み合わせるかを育てるかの総合的な方針や計画を策定することが望まれます。また、その中に、経験や習熟度に応じた、専門知識や保育技術などの期待水準も明文化することが良いと考えられます。それにより、横浜市や鶴見区などが行う外部研修のどれに参加するのが良いかを、職員が選択する目安となりますし、園内研修で何を行うべきかなどの指針ともなります。

また、現在、園が定めた「保育への取り組み状況」などの共通項目について、全職員が自己評価を行っています。それに加えて、一人一人の職員が、重点的に取り組む課題や目標を毎年自分で定め、達成度を評価する体制を取り入れると、さらに効果的な資質向上への取り組みとなることが期待されます。

評価領域ごとの特記事項

1.人権の尊重

	<ul style="list-style-type: none"> ・保育理念は、“保護者、園職員、地域の方々ほか、皆で見守る優しい環境作りを大切にし、まるでポケットの中のようなぬくもり溢れる温かさと安心感を提供できるよう心掛け、地域に根付いた子育て支援を目指していく。”です。これに基づき、保育目標・保育指針を定めています。 ・子どもに対して威圧的な言葉遣い、無視が行われないよう、園長がリーダー会議で職員に伝えています。また、子どもを呼ぶときは、「くん」や「ちゃん」をつけ、呼び捨てにしないこととしています。 ・個人情報取り扱いに関するガイドラインは用意しておらず、守秘義務の意義や目的を、職員等に周知する機会はありません。
<p>2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育課程に基づき、年齢ごとに、年間指導計画・月間指導計画・週案・日案を作成しています。日々の保育の中で、職員は、子どもの年齢に見合った分かりやすい言葉で、必要なことをきちんと説明するようにしています。 ・子どもの発達や状況に応じて、月間指導計画・週案を作成し、評価・見直しを行っています。見直しにあたっては、保護者に対するアンケートの結果などから保護者の意向を把握し、指導計画に反映させるようにしています。 ・3歳未満の子どもについて、個別指導計画を作成しています。また、幼児は、配慮が必要な子どもについて個別指導計画を作成しています。 ・玩具は、各種ブロックや積み木、電車、車、人形、ぬいぐるみ、トランプ、カルタ、折り紙などを用意し、構成遊びやごっこ遊びなど、遊びが発展していくようなものを取り入れています。牛乳パックで使った手作りの玩具なども用意しています。子どもの興味や発達に合わせて玩具の入れ替えをしています。 ・子どもの年齢や発達状況にあわせて自由に表現できるよう、製作やお絵かき、歌、手遊び、リトミック、ダンスなどを行っています。4・5歳児クラスは外部講師が来園し、ダンス教室を月1回実施しています。 ・毎朝・毎夕、全園児が多目的ホールに集まり、朝の会・帰りの会を行い、異年齢児交流の場となっています。また、毎月の誕生会も全園児が集まり、行っています。 ・屋上の園庭を利用し、プチトマトやきゅうりを栽培しています。収穫した野菜はクラスのみんなで食べるなど、新鮮な野菜を子どもたちが味わっています。 ・3歳児クラスから月1回クッキング保育を行っています。みかんジャムやみかんジュースを作ったり、子どもたちが採ったニンジンを使いクッキー作りをしたり、とうもろこしの皮むきなどを行っています。また、調理職員と一緒に、子どもが旬の食材に触れたり下ごしらえをする機会を持っています。各クラスで食育の計画をたて、栄養士と連携を取りながら実施しています。 ・年1回、年度のはじめにクラス懇談会を行い、各クラスの様子を保護者に伝えています。年1回行う保育参加の後の全体会では、0～5歳児クラスの活動をDVDにまとめたものを上映しています。

<p>3.サービスマネジメントシステムの確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや家庭の個別の状況・要望や、子どもの成長発達記録は、内容に応じて各クラスまたは事務室に置いてあり、必要に応じて全職員が見ることができるようになっています。 ・職員は、特に配慮を要する子どもや障がいのある子どもの保育に関し、横浜市などが行う研修に参加しています。参加した職員は、研修報告を作成し、会議で内容を伝えるなど、全職員が情報を共有できるようにしています。 ・園内のフロアーはフラットなつくりであり、エレベーターも設置されています。また、車椅子でも利用できるトイレがあり、バリアフリーに配慮しています。 ・苦情解決体制の概要を、「＜苦情・要望＞受付窓口の案内」として園内に掲示するほか、重要事項説明書にも記載し保護者に知らせています。第三者委員に、保護者は直接苦情を申し立てることができます。 ・クラス懇談会や、年度末の保護者アンケートなどで、要望や苦情を把握しています。 ・「健康管理マニュアル」に、健康診断などの対応方法を記載し、一人一人の健康状態を把握しています。 ・各保育室と事務室に、「地震発生時の流れ」、「火災発生時の流れ」、「事故発生時の流れ」を図式化した掲示物を貼り、全職員に周知するとともに緊急時に速やかに連絡できる体制を整えています。 ・月1回、地震・火災・水害・不審者などを想定した避難訓練を行っています。保育室内で子どもたちは裸足で過ごしているため、災害時に備えて、各自の上履きを保育室に置き、子ども用の防災頭巾や職員のヘルメットを全員分用意しています。 ・健康管理・感染症への対応・衛生管理・安全管理などのマニュアルは作成されていますが、個人情報取り扱いやボランティア受け入れなど、作成されていないものがあります。また、既存のマニュアルも内容をさらに充実させることが望まれるものもありますので、マニュアルの整備が期待されます。
<p>4.地域との交流・連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域子育て支援として、一時保育、育児支援、育児講座、育児相談などの取り組みをしています。育児支援は、1回3組限定で、毎月0歳児、1歳児、2歳児と順番に行っており、各クラスの子どもたちと活動や給食をともにしています。その他に「保育園で遊ぼう」と題し、ホールや屋上などで、親子が遊べる機会を提供しています。育児講座では「食中毒と離乳食」、「寒さに負けない強いからだを作ろう」などをテーマに、地域の親子に向けて園長が話をしています。 ・一時保育や育児講座などのとき、保護者から相談があれば応じています。定期的な育児相談は、月1回の予約制で受け付けていますが、週に1回以上、相談日を設けて対応することが望まれます。

	<ul style="list-style-type: none"> ・4・5歳児クラスの子どもは月1回程度、図書館を利用しているほか、地域ケアプラザにある子ども広場なども利用しています。また、3～5歳児クラスの遠足では、系列園の子どもたちと一緒に、羽田空港に行っています。さらに、日常的に、近隣の保育園や系列園の子どもたちと交流をしています。 ・年間1～2名の実習生を受け入れています。受け入れにあたっては、「保育士実習の心得マニュアル」に基づき、園の方針や子どもへの配慮事項を実習生に説明しています。
<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士などの指導計画の自己評価や保護者アンケートの結果から、保育所としての課題を明らかにし、改善に取り組んでいますが、保育所としての自己評価をするには至っていません。 ・職員に、全国保育士会倫理綱領を配布しているほか、会社として「保育士としての心得」「有限会社KBCが大切にしていること」を定め、守るべき規範・倫理などを周知しています。 ・保育理念、保育目標、保育方針は、毎年度の事業計画書や園のパンフレットに記載し、職員に配布しています。園長が、保育理念、保育目標、保育方針を、職員会議などで説明しています。 ・事業運営に影響のある情報は、鶴見区役所や鶴見区園長会などから得ています。重要な情報は、リーダー会議で議論し、必要に応じ職員会議でも伝えています。
<p>6.職員の資質向上の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員（非常勤職員も含め）が、園が定めた「保育への取り組み状況」などの共通項目について、毎月、自己評価を行い、それに対して、園長がコメントやアドバイスを返しています。今後、一人一人の職員が重点的に取り組む項目や目標を毎年自分で定め、達成度を評価する体制も取り入れると、さらに効果的な資質向上への取り組みとなることが期待されます。 ・職員は、横浜市や鶴見区などが行う研修に参加しています。研修に参加した職員は、研修報告を作成、職員会議などで内容を報告し、全職員が情報を共有できるようにしています。 ・日常の保育や保護者との対応など、それぞれの担当者が責任を持って対応するようにし、指導計画に関する自己評価は、計画で意図したねらいと関連付けて行い、子どもの意欲や取り組む姿勢がどうであったかなどを重視しています。 ・外部研修・園内研修、職場訓練（OJT）、自己啓発などを、どのように組み合わせるかを育てるかの総合的な方針や計画を策定することが望まれます。また、その中に、経験や習熟度に応じた、専門知識や保育技術などの期待水準も明文化することが良いと考えられます。